

「自分ごと」

五泉中学校 2年 金子 翠音

あなたは広島に落とされた原爆について何を知っていますか。私は数か月前まで、授業で習うことしか知りませんでした。といっても、だいたいの方がそうなのではないでしょうか。78年も前のことだし・・・と思う方もいると思います。ですが、戦争は、原爆を落とされた現実は、まだ78年しか経っていないことなのです。だからこそ、次世代を担う私たちが知るべきだと思います。

8月5、6、7日の3日間、私は広島平和記念式典派遣事業に参加してきました。その中で一番心に残った言葉は、多くの方が口にしていた「自分ごと」という言葉です。そこで私は、「自分ごと」について考えてみることにしました。

作文を書くにあたり、「自分ごと」という言葉は、いつ、どのような場面で使われていたのか、というのを思い出しました。

「自分が実際に被爆をしたら、と考えてみてほしいです。」

という言葉の前後に「自分ごと」という単語が出ていました。そこで、今ここで、何の予告もなしに原爆が落とされてしまったら、ということを考えました。まず浮かぶ感情は、恐怖でした。広島で学んだ、「爆心地から約1.2キロメートル以内にいた人々はほぼ即死」であったことを思い出し、ちょうど自分の上に落ちてしまったら、どうなるんだろう。と思いました。また、原爆には放射能や火傷など、被爆後も苦しむことになる被害もあります。家族はみな亡くなり、私だけが残った場合、自分はなぜ死ぬことができなかつたのか、と思うでしょう。少し考えただけでも、たくさんの恐怖につながります。ですが、これが「自分ごと」になって考えるということなのです。

ここまで私は、他人ごとではなく、自分ごととして、原爆について考えてきました。おそらく、私の文を読んで自分だったら・・・と考えた人もいるでしょう。その考えるという行為を大切にしていきたいです。そして、周りの人が考えるきっかけをつくってください。私もこれから、学校でも、学校ではないところでも、できるかぎり、3日間のことをはなし、自分ごとになって考えてもらうきっかけをつくっていこうと思います。それが、次世代を担う私たちができることことだと思っています。